



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

国文学研究資料館



東京書籍

古往来からひもとく日本の学び

東書文庫と国文研、往来物（昔の教科書）を続々デジタル公開へ

概要

国文学研究資料館（以下、「国文研」）では、東京書籍株式会社附設教科書図書館 東書文庫（以下、「東書文庫」）が所蔵する昔の教科書＝往来物（旧謙堂文庫）原本のデジタル化を行っており、今後WEB上で一般公開してまいります。

第一弾として、平安時代から鎌倉時代に記され、のちの往来物の起源となった、大変貴重な「古往来」45点（別紙1参照）を、本年7月6日(金)に国文研の「新日本古典籍総合データベース」で公開いたしましたのでお知らせいたします。

往来物は、平安時代以降、手紙の文案などが収録され、初歩教材として使用されてきたもので、特に江戸時代の寺子屋などで教科書として使われたことがよく知られています。

東書文庫が所蔵する「旧謙堂文庫資料」は、教育史家である石川謙（1891 - 1969）が生涯にわたって蒐集した教育史関係の記録、文書、文献を中心に構成されています。氏の旧蔵書のうち、13世紀後半から19世紀後半にかけての約600年間に及ぶ初歩教科書3,340点が、2014年に東書文庫に譲渡され、今回のデジタル化にいたしました。

東書文庫と国文研との間で覚書を交わし、2017年度に撮影されたものは約1000点余り。現在、その書誌データを作成しており、本年秋には、地理・産業・消息（手紙文）に関する往来物約1000点を国文研の「新日本古典籍総合データベース」より順次公開いたします。さらに、今後残りの往来物も全てデジタル化を実施し、随時公開していく予定です。

鎌倉中期にしろされた『いろは』をはじめとしたこれらの資料は、教育史の研究や書道の手本としても、今日でも十分活用できるものです。

公開された画像は、インターネット経由で、いつでもどなたでも、手続き不要でご利用いただけます。研究や生涯学習の現場で、どのような用途でも、以下の条件を踏まえた上で自由にご活用いただけます。ぜひご活用ください。

- 公開年月日：2018年7月6日（金）
- 公開数：45点（作品数）・1,420コマ（画像ファイル数）
- 公開サイト：新日本古典籍総合データベース：<http://kotenseki.nijl.ac.jp>

- 利用条件：クリエイティブ・コモンズ 表示 - 継承 4.0 国際 (CC BY-SA 4.0)

<https://creativecommons.org/licenses/by-sa/4.0/deed.ja>

クレジット表示をすることにより、自由にお使いいただけます。ご利用の際には、以下のようなクレジット表示をお願いします。

（例）撮影：国文研／所蔵：東書文庫



なお、国文研では、東書文庫との連携協力を端緒に、往来物に関わる取り組みを進めています。詳細は別紙2をご覧ください。

本件に関するお問い合わせ先

国文学研究資料館 古典籍共同研究事業センター
事務室 古典籍共同研究係
E-mail: cijinfo@nijl.ac.jp
TEL:050-5533-2988 / FAX:042-526-8883

東京書籍株式会社附設教科書図書館 東書文庫
TEL:03-3927-3680 / FAX: 03-3927-3800
<http://www.tosho-bunko.jp/>

■ 共同プレスリリース ■

国文学研究資料館および東書文庫のご紹介

**東京書籍株式会社附設教科書図書館 東書文庫**

東書文庫は、日本で最初にできた教科書図書館で、昭和11(1936)年6月の開館以来、時代と共に教科書を収集・保存してきました。

その成り立ちは、母体である東京書籍創立25周年の記念事業によるものです。東京書籍は明治42(1909)年の創立ですが、当時の三代目石川正作社長は、「今のうちに日本の教科書を蒐集し保存をしないと何れ散逸してしまう」ことを惜しみ、研究利用の設備も設けた専門図書館の設立を決めました。

当館に対する需要は益々増え、閲覧・参館者は全国に及んでいます。また、テレビ局、映画制作会社、新聞社、出版社などからの取材も多く、多様なメディアで紹介されています。

【東書文庫 ホームページ】

<http://www.tosho-bunko.jp/>



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

国文学研究資料館**大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国文学研究資料館**

国文学研究資料館は、国内各地の日本文学とその関連資料を大規模に集積し、日本文学をはじめとする様々な分野の研究者の利用に供するとともに、それらに基づく先進的な共同研究を推進する日本文学の基盤的な総合研究機関です。

平成26(2014)年度からは、人文系では初の大規模学術フロンティア促進事業「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」がスタートしており、国文研が中心となって国内外の大学等と連携し、日本語の歴史的典籍のデジタル化と、国際共同研究ネットワークの構築を推進しています。

【国文学研究資料館 ホームページ】

<http://www.nijl.ac.jp/>

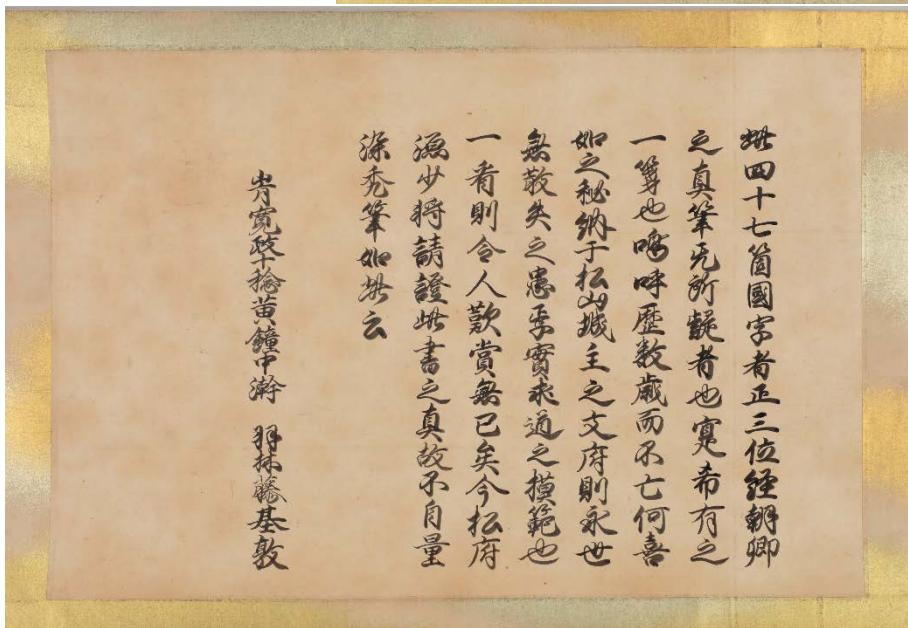
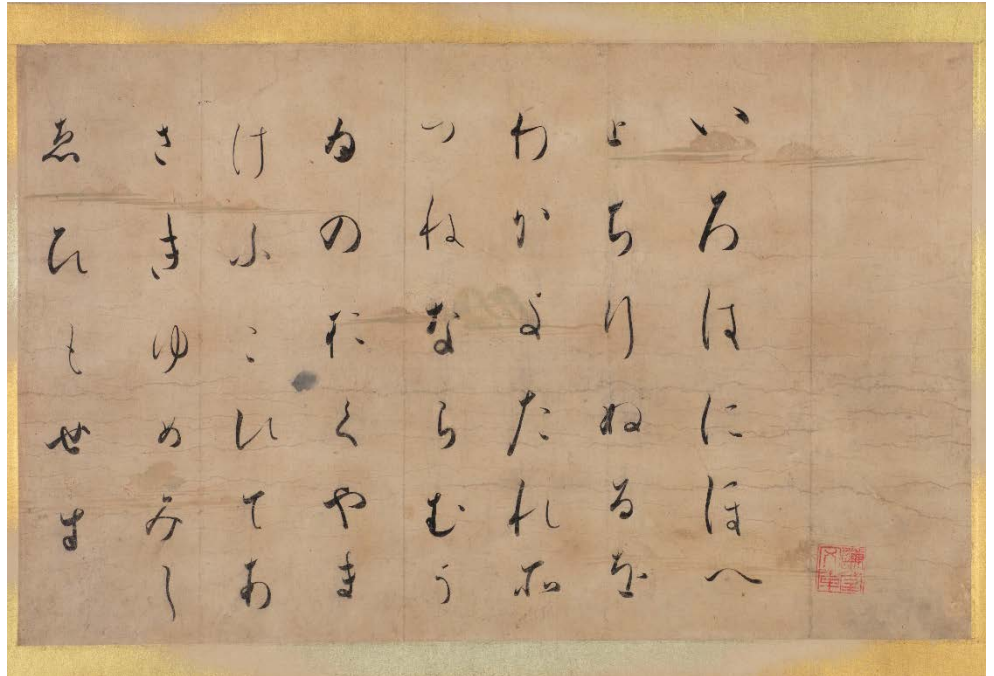
【日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画】

<http://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/>

今回公開された資料のいくつかをご紹介します。

世尊寺経朝 写『いろは』（鎌倉時代中期）

（せそんじつねとも）



鎌倉時代（12-14世紀）中期、世尊寺経朝の筆と伝えられるもので、東書文庫所蔵資料の中で最も古いもの。平仮名の「いろは」47文字からなり、料紙に岩などになぞらえて書かれた模様の紙（葦手）が用いられています。

旧蔵者の松山藩主のために、世尊寺経朝の真筆であることを証した羽林基敦（持明院基敦）の奥書が添えられています（画像下）。

画像

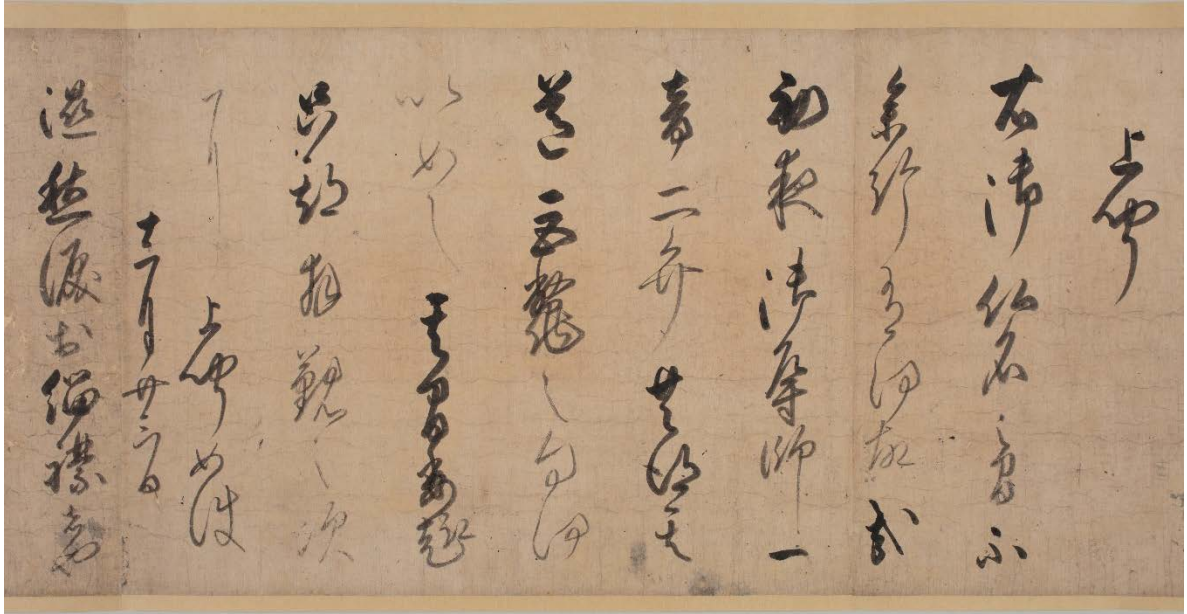
<https://doi.org/10.20730/100261542>

公開された資料をいくつかご紹介します。

尊円親王 写(伝)『明衡往来』（南北朝時代）

(そんえんしんのう)

(めいごうおうらい)



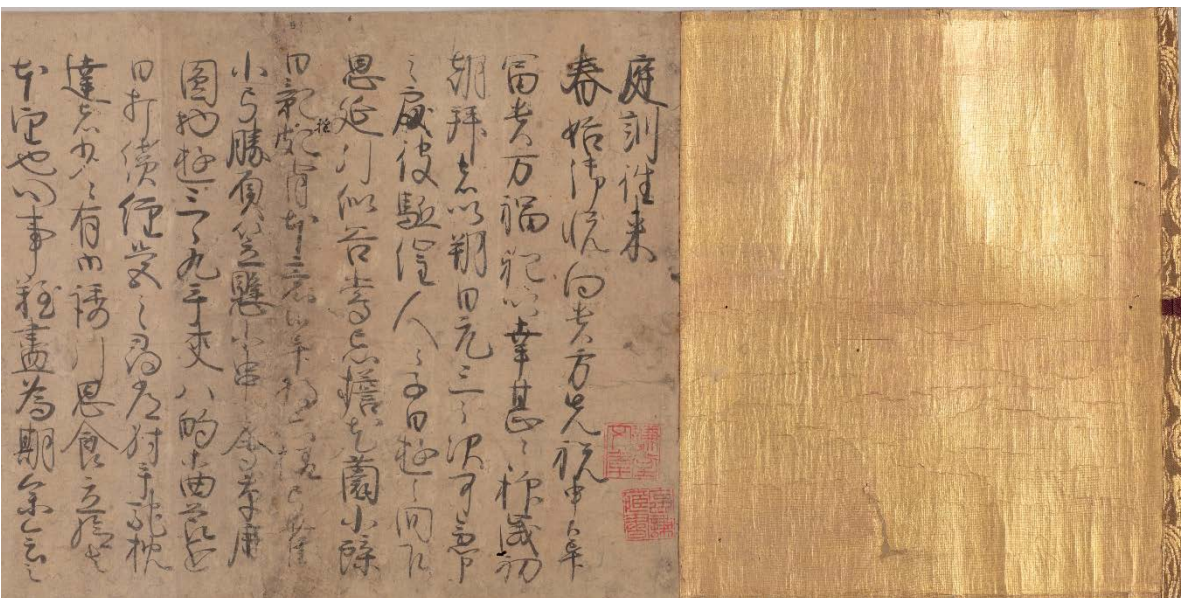
平安貴族であった藤原明衡（989-1066）の作と伝えられる手紙案文をまとめたものが「明衡往来」で、最古の往来物の一つです。この一軸は、和歌や書に秀でた尊円親王（1298-1356）の筆と称されるもので、「明衡往来」から4通抜き出して手本に仕立ててあります。

画像

<https://doi.org/10.20730/100261455>

経覚 写『庭訓往来』上下（室町時代中期）

(きょうかく) (ていきんおうらい)



南北朝時代から室町時代（14世紀-16世紀）に成立した代表的な往来物「庭訓往来」の中でも最古本の一つです。「庭訓往来」は江戸時代を経て明治初年にいたるまで広く普及した往来物ですが、本資料は奈良・興福寺の大僧正、経覚の筆と伝えられています。

画像

<https://doi.org/10.20730/100261521>

■ 別紙2 ■

国文研の「往来物」に関する取り組みをご紹介します。

国文研では、東書文庫の所蔵する往来物のデジタル化を端緒に、以下の取り組みを実施しています。こうした取り組みにより、日本人の学びの系譜を示す往来物を、新日本古典籍総合データベースで総合的に見るできるようになります。

往来物倶楽部所蔵資料のデジタル化

往来物倶楽部は、往来物研究家の小泉吉永氏が主催するウェブサイトで、往来物の各種情報を発信し、往来物のデジタル化公開にも取り組んでいます。

国文研は、2017年3月に小泉氏と覚書を交わし、同倶楽部所蔵の往来物画像データの提供を受け、新日本古典籍総合データベースで公開することとしました。往来物画像データは順次提供を受けており、2018年冬までにその一部を公開予定です。

【往来物倶楽部 ホームページ】

http://www.bekkoame.ne.jp/ha/a_r/indexOurai.htm



往来物倶楽部所蔵『女四書』明暦板

[参考] 国文研所蔵の往来物



別紙1で紹介した『庭訓往来』の一つ。絵入り、読み下し文付きなど、多くの版が出版されている。国文研蔵、

<https://doi.org/10.20730/200019663>

女子用の往来物も数多く出版された。

『女小学教草』嘉永5(1852)年, 国文研蔵,
<https://doi.org/10.20730/200020813>



本プレスリリース資料及び別紙に掲載された往来物の画像（往来物倶楽部所蔵を除く）は、いずれも表示されたURLからダウンロードして利用することができます。

利用の際には以下のクレジット表示をお願いします。

【別紙1に掲載の東書文庫所蔵の往来物】 撮影：国文研／所蔵：東書文庫

【別紙2に掲載の国文研所蔵の往来物】 国文研所蔵